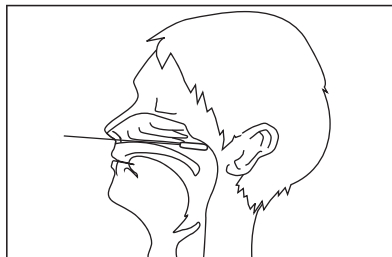


イムノエース[®] Flu/RSV操作方法

株式会社 **タウンズ**
お問い合わせ先 ☎0120-048-489

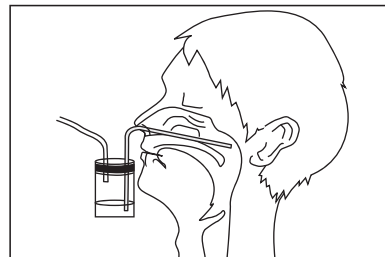
■ 検体採取

鼻腔ぬぐい液



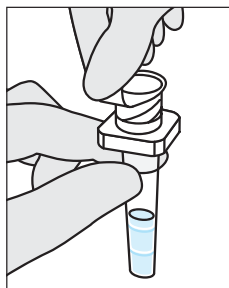
キット付属のスワブを鼻腔にしっかり挿入し、鼻甲介を数回こするようして粘膜表皮を採取します。

鼻腔吸引液

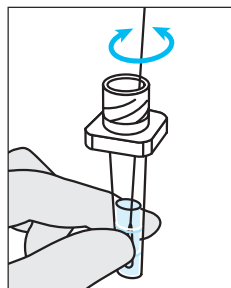


- i) 吸引トラップの片方のチューブを吸引ポンプに、もう一方のチューブを外鼻孔から鼻腔にしっかり挿入します。吸引ポンプを動作させて鼻腔液を吸引トラップに採取します。
- ii) トラップに採取した鼻腔吸引液にキット付属のスワブを浸して液をよく吸収させます。マイクロピペット等で採取する場合は、鼻腔吸引液を生理食塩水で2倍希釈し、200 μ Lを採取します。

■ 試料調製

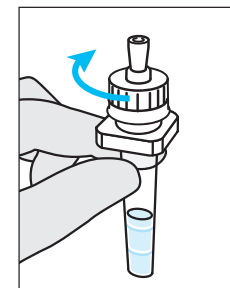


検体抽出液の容器のアルミシールを液が飛び散らないように剥がします。



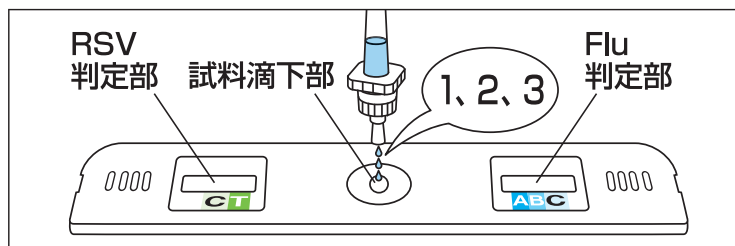
検体採取後のスワブを検体抽出液に浸し、容器の外側からスワブの頭部を軽くつまみ5回以上左右に回転させ、上下に動かし攪拌します。抽出後、容器の外側からスワブの頭部をつまみ、試料を絞り出すようにスワブを引き抜き、試料とします。

(生理食塩水で2倍希釈した鼻腔吸引液を使用する場合は、200 μ Lを検体抽出液に加えてよく混和し、試料とします。)



検体抽出液の容器の上端に付属のノズルを被せてしっかりと閉めます。

■ 試料滴下



検体抽出液の容器の中ほどをつまみ、テストプレートの試料滴下部に試料**3滴**を滴下します。

⚠ 注意 ———
テストプレートは開封後すぐに使用してください。

注意事項

- ① 滴下するとき、検体抽出液の容器は垂直に保持し、ノズルの先端が試料滴下部に触れないように注意してください。
- ② テストラインは、ラインの濃淡に関わらず、目視で確認できれば陽性です。
- ③ ラインは色分けにより区分されている各判定部内であれば、その位置にかかわらず有効です。
- ④ フィルターに目詰まりするほどの強粘性の試料は、生理食塩水で2倍希釈して使用してください。
- ⑤ 抗原量が非常に多い場合には、判定部[A]又は[B]又は[T]に非常に濃いラインが認められ、判定部[C]にラインが認められないことがあります。このような場合は、新しい検体抽出液1本に対して試料を3滴滴下し、希釈調製したものを試料としてください。
- ⑥ 吸引器はキットに含まれておりません。
- ⑦ 滴下量が多すぎた場合には、本品の測定原理から白金-金コロイド標識抗体が希釈されることにより反応が遅延し、判定時間内に判定部[C]及び/又は[A]又は[B]又は[T]にラインが認められない、又はラインが薄くなる場合があります(偽陰性)。

■ 判定

